

## かさなる想い

武田 浩史 看護学生1年 青山キャンパス

私は大学を出てメーカー勤務を経験したのち、震災の経験を通して『地元を最期まで自宅で暮らせる地域にしたい』と考えるようになりました。『たとえ治らない病気があったとしても病気と付き合いながら生きることを支えたい』と考え看護師を目指しています。

自宅で最期まで暮らすために私は「生活と医療」の両方の視点から考えることができる看護師の職種に興味を持ちました。そんな私なので、テーマ「町にかかりつけナースを創るために」について非常に興味深く聞いていました。

今日の話の中で「プライマリケア」の担い手として、「プライマリケアチームとしての看護師」の話に心が揺さぶられました。看護師がミニ医者のようになるのではなく、看護師の本来の特性である「その人の生きる力を出せるように環境を整え、回復する力を引き出す」ことを十分に活かすことが大事だと。その人の生きる力を取り戻すために、看護師はプライマリケアのチームメンバーとして重要な役割を果たせると。私は最近、看護師の進路に迷いが生じていました。看護師としての強みの「生活の中の医療」という視点を身に着けるために看護師を目指しているはずだったのに、どこか中途半端さを感じていました。藤野さんの話を聞くことができ、改めて「生活の中の医療」の視点が大事で、かかりつけナースが活躍し、コミュニティーデザインに繋がられるよう頑張りたいと思うことができました。

講義が終わってからのお蕎麦屋さんでの話が非常に楽しかったです。「藤野さんが看護師の仕事が好きで、今の仕事を本当に楽しんでいる」ことが伝わってきました。そして藤野さんの話から『本質は同じところに辿り着く』ということを感じました。

藤野さんがスタッフ・利用者さんのためにと考え工夫していることが、聞いているこちらにも楽しくなるようなことばかりでした。例えば、ちょうどスタッフの子供さんが昨日誕生日だったので、スタッフ総出でお祝いメッセージの動画を作ってプレゼントしたり、毎日の朝礼で「スタッフ同士で感謝のシェア」をしたり、「ハッピープロジェクト」として毎月一人の利用者さん当たり 1,000 円以内なら利用者さんを喜ばせるために何を買ってもいいルールがある(会社のお金で購入できる)、などなど利用者さんだけでなくスタッフのことを大事にしていることが非常に伝わってきました。これらの取り組みは「働きがいのある会社」として有名な企業が取り組まれていることとに似ていると私は思ったのですが、藤野さんが独自に考えて辿り着いたと聞いて驚きました。

さらに藤野さんが「社長の仕事は、みんなが働きやすい環境を整えること。そのためにつなげるのが楽しい」と言われていて、私が尊敬する方がほとんど同じ内容を話されており、それを藤野さんが自分の経験の中から見出されている、というのが本当にすごいと思いました。

藤野さんの話を聞きながら、真剣に考えると『本質は同じところに辿り着く』のだ、ということを感じました。

乃木坂スクール #9「発信力を磨き・想像力を磨いて、医療を変える・福祉を変える」

受講日:2015/6/11(木) 第9回 藤野 泰平先生

男性看護師と少数派だからこそ受けてきた苦い経験に対してどう向き合ってきたのかという話  
も凄く勉強になりました。今後の私も看護師としての専門性をしっかりと磨くとともに、そのような  
壁にあっても、困難を乗り越えられるようになりたいと思います。

私も藤野さんのような看護師になって、そして藤野さんが提供しているようなサービスを私の地  
元でも提供できるようになり、同じ職場のみんなも利用者も、そして利用者の家族もみんなが幸  
せになれることをしたいと考えています。

お話を直接聞くことができ本当に嬉しかったです。ありがとうございました！！